

希望 21

ありふれたことだけど
かけがえのない
希望がここにある

People's Hope for 21 century

▶ 平和・自治・共生

1997年 5月号

No.20

1部 200円 年間購読 3000円

神奈川県相模原市上鶴間2973-3-110

TEL & FAX 0427-40-4794

郵便振替：00100-1-97125 希望 21

見
本



新ガイドライン（日米防衛協力のための指針）見直しの実態とは

4月26日、直前に国会で成立させた駐留軍用地特別措置法改正（4月17日成立）を手土産に合衆国を訪問した橋本首相は、すでに6度目を数えるクリントン大統領とのサミット会談を行った。日米安保体制によって、アジア太平洋地域の安全を支え続ける。そのために日本は、在日米軍の兵力を維持する。今年の秋までにと約束していた米日共同軍事作戦のための「防衛協力指針（ガイドライン）」見直し作業を一層強力に促進する。――彼がわざわざワシントンまで行って再確認した約束は、とりわけ新しい事は何もない。しかし、この再確認のために、多くの沖縄の人々の心を踏みにじり、地元での公聴会さえ開かれずに、米軍基地を存続させるための特別措置法改正が国会で成立させられた。そして、この首脳会談と時を同じくして政府は、沖縄の米軍普天間飛行場移転に伴う海上ヘリポート建設のため、5月1日から移転候補地キャンプ・シュワブ沖の事前調査に着手すると発表した。

さらにこの会談の翌27日、日本の外務省と防衛庁は「！朝鮮半島有事など日本周辺で軍事紛争があった場合、情報収集するのは自衛隊の本来の任務、結果的に米軍が作戦に生かしたとしても集団的自衛権行使を禁止した憲法上の法的問題は生じない」と、なんとも人を食った法的判断を、臆面もなく公的判断として公表し、自衛隊の通信基地で傍受する電波情報、イービス艦や早期警戒機が日本領海や公海上で収集する紛争当事国の艦船・航空機の動きなどの軍事情報を随時速報で米軍に全面提供する方針を発表した。もちろんこれは、ガイドライン見直し作業の一環である。

軍隊を自衛隊とごまかした事が始まりか、「安保」の言葉はどンドン日常の日本語からずれていく。

ガイドライン＝「日米防衛協力のための指針」見直しが日米間で合意されたのは96年4月の橋本・クリントンにおいてだが、その実態は、互いに独立した軍隊同士が協力し合うと言う枠組みさ

今この人に聞く 福士敬子さん

え、大きく踏み越えているように思う。全国各地で繰り返される米日共同軍事演習。転戦する米軍用員を航空自衛隊が空輸する姿は、もう珍しい事でもなんでもないと言う。訓練する陸上自衛隊の装甲車に米兵が乗り、空では米空軍のF-16やF-15と空自のF-1が混成攻撃飛行隊を組む。それは協力関係と言うより、混成部隊といったほうが適切であるような実態が事実上進行している。そうだとするなら、政府自身憲法上禁止されていると認める「集団的自衛権」と言う言い方すら、あまりにも生優しく、見当外れのものにまでなっていると言う事だろう。

ガイドラインとは、この混成部隊の作戦計画書であり、この混成部隊が実際に戦争を遂行するために必要とされる法整備や役割分担や、民間徴用の手続きやらの、多方面にわたる約束ごとの細目のことだ。けっして漠然とした方向性の確認といった類ではない。日本海へのソ連原潜封じ込めと米「海洋戦略」を軸とした旧ガイドラインに代わる新しい作戦計画書の策定へ。橋本・クリントンの合意では、この5月の中旬から6月初旬に「中間報告」をだし、9月には最終決定の約束だという。

すでに昨年の6月、新ガイドラインへ向けた「進捗状況報告」が出されている。その報告書によれば、新ガイドラインには、3つの大きな柱があるという。ひとつは、旧ガイドラインの「侵略を未然に防止する」に代え「平素から行う」（米日の）協力とする。つまり、戦時と平時をく区別するすでに曖昧になってしまった境界線はいつそのこと取り払う。ふたつめは、日本有事の際「日本に対する武力攻撃に際しての対処行動」という旧規定を「武力攻撃が差し迫った場合も含む」規定へと拡大しての米日共同作戦。みつつめは、旧ガイドラインの「日本以外の極東における事態で日本の安全に重要な影響を与える場合の日米間の協力」に代わり「日本周辺地域において発生し得る事態で日本の平和と安全に重大な影響を与える場合の協力」と、日本外「周辺」地域での共同作戦を明確に打ちだした。日本周辺とは、従来の「極東」が米日協力を条件づける但し書き（実際にその場に行かなくての協力の仕方は色々ある）の曖昧さを残していたものから、実際の作戦行動の現場に変わった。もちろん朝鮮半島有事が極め

て具体的に想定されている日本周辺有事だという事はまちがいない事だろう。しかし、それだけでなく「日本周辺」は「極東」よりも、ずっとずっと広い範囲を指している。先の外務省・防衛庁など政府は、さかんに日本領海及び公海上という事を言い始めている。

政府はこの5月の「中間報告」で、このガイドラインの全容を明らかにするのだろうか。それともまた情報を細切れのまま小出しにし、苦笑を禁じ得ない法解釈を交えてお茶を濁し、いっきに9月の新ガイドライン策定へとつき走るのだろうか。そんなごまかしが許されて良い問題ではないはずだ。

横須賀、佐世保をアジア・太平洋の最大の出撃拠点とする米海軍は、地域紛争に対処すべき新しい戦略は、「海の戦略（Maritime Strategy）」に代えて「海からの（From the Sea）」戦略だと言う。海からの強襲上陸作戦のため沖縄には師団規模の海兵隊が常駐し、佐世保ではホーバークラフトを搭載した強襲揚陸艦が増強され、その空域を完全にコントロールするために横須賀に配備された米第7艦隊の半分がイージス艦に取って代えられた。その流れの中に、海上自衛隊のイージス艦増強があり、艦が得た紛争当事国の艦船や航空機の情報は「随時米側に速報」しなければならないという事になる。しかもそれは、こちらの勝手ではなく、共同作戦上の義務あるいは任務としてそうでなければならない。ガイドライン見直しの実体とは、そういう事だろう。

それは、私たちにとって決して許す事の出来ない道だ。いや、私たちだけでなく日本に住むほとんど全ての人にとって、決して許容できない選択だろう。まして、戦場とされた「日本周辺地域」アジアの人々にとって……。

こんな事をやめさせる事の出来る力を、私たちは一日も早く作り出したいと思う。そのために、今、精いっぱい声を挙げる。

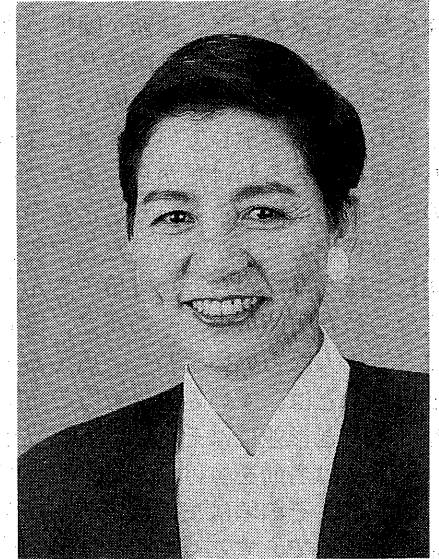
（希望21・京都／津田光太郎）

福士敬子さん（杉並区議会議員）

83年から14年間杉並区議として、区政はもちろんPKO法や原発、消費税そして先だつての沖縄米軍用地特別措置法改悪についても一貫して市民の側から発言をし続けてきた福士敬子さんが、この夏、東京都議会議員選挙に打って出るという。

臨海副都心、日の出の第2処分場など争点のあるはずの今回の都議選だが、マスコミをはじめ世間は低調だ。福士さんの決断が、国会以上に総与党化の進む都議会へ、そして政治にあきらめ果てている人々へも強烈なメッセージとなることを期待して、共に行動したいと思う。

（インタビュー：菅原"ヨシ"和之）



☆子どもの頃から

生まれは釜山で、6つの時までいました。小学校1年生の時に敗戦だから、それで引き揚げてきたの。母に言われたのは、幼稚園の時に総代で話すことになったとき、どうも話さなくちゃいけないことを忘れてたらしくて、そしたら勝手に話をちょんぎって適当に話して終わらせちゃったらしくて、いい度胸だと言われたことはあります。でもね自分で記憶している限りは、すごい赤面症で、小学校なんかで「わかった人は手を挙げて下さい」と言われるじゃないですか、そういう時に知っても手を挙げないようなそんな感じで、通知票にもそう書かれたくらいなんです。

子どもの頃から、すごく小心者で、大人になってもずっと。だから議会に入ってから質問するときなんか真っ赤になっちゃって、ああイヤだみたいな時がときどきあるの。この頃は図々しくなってそうなる回数は減ったけど。だから基本的には私は表に出るのはあんまり好きじゃないよ。だから議員も向いてないって言うと、みんなに笑われますけど。自分ではそう思ってます。だけどおっちょこちょいだから、誰かと話をしている「それはおかしいよね」みたいなところがあるとついポロッと行ってしまふから、それでPTAとかでもお役がついちゃったりとか、議員に出るときもそうだったりして「黙ってられない」というところがありますね。それは子どもの頃からそうだったみたい。高校の頃の友達なんかにもそう言われます。

☆若い頃、政治的な衝撃を受けた経験は

何もないんですよ。自分が議員になるときだつて、大それたことだと思わないくらいね、それほどわ

かってなかった。政治なんて全然。60年安保の時もTV見て「みんなえらいなあ」と思ってたぐらい。自分が何かしようとは思いませんでしたね。

☆区議選へ打って出ようと思ったきっかけは

子供が産まれた頃に、有吉佐和子さんの「恍惚の人」を読んだり、朝日新聞に連載していた環境汚染についての連載記事を読んだりして、環境問題や高齢者福祉に関心を持ち始めて、77年に生協に入るんだけど、自分で環境を汚す側には立ちたくないと思って。それまで合成洗剤使っていたんだけど、自分の体の害にもなるということはあるんだけど、河だとかの環境を汚したりして自分が他人に対して加害者になるということが分かって、それは申し訳ないと感じました。それで、石鹸を使うことを始めたんです。

生協にもいろんな生協があるんだけど「品物が安いよ」って言い方もあるけれど「安い」って言うのは生産者を買叩くことだから、それは納得できなくてね。その時生活クラブは「適正な価格で」という言い方をしてたんですよ。生産者も成り立っていくし、私たちも、という考え方が基本にあったんで、それに納得して生協に入ったら、（生協も）運動だから、環境問題を考えて合成洗剤を使わないことなんか運動の中に入っていて「なるほど」という風に思ったの。だから食べ物を自分たちで（流通も含めて）買ったりするのはしょうがない部分もあるんだけど、基本的には誰でもちゃんとした食べ物を買える状況が当たり前の話だし、憲法でも「国民の健康な生活」っていうのは保証されているわけだから、そうやって（生協をつくるなどして）自己防衛しなくちゃならないって言う

のは、本当はヘンだよと、片一方では生協に入りながらもそう思っていました。

ただ生協の活動をしていく中で「運動」といえば「運動会」ぐらいにしか思っていなかったのに、「これも運動よ」なんていう人の話を「へーっ」なんて思いながら聞いていたりしました。そのうちに「やっぱりね、自己防衛だけってのはヘンだよ」って気持ちの方が強くなって来ました。請願・陳情いうやり方もあったけれど、行政に対してお願いだけというの嫌じゃない？というのもある。お願いするだけじゃなくて自分の方から提案していく立場になろうと思えば誰でも立候補できるわけだから、それなら自分たちの仲間の中で政治に関わるということをやった方がいいよ、って言い始めた人が数人いたんですよ。

一番最初に生活クラブから、片野玲子さんという練馬の区議になられた方がいて、その時に、自分で投票するときに「この人ならいいよ」と思える人の名前を書けるということは、ずいぶん素敵なことだね、と思ったのね。だけど杉並にはそういう人は立たなかったから、杉並では名前を書けなくて「残念だなあ」って思ってたの。その頃は、子どもが小さい上に母が痴呆だったので、すごく忙しくて、政治に関わるなんてことは夢にも思わなかったですね。でもそういう思いを持っていたということからすれば、政治に関わるということはそれほど不思議な話じゃなくてね、投票する人がいなければ自分たちでつくればいいよねぐらいに、ものすごく簡単に考えていたのね。そのうちにまあいろいろありまして、夫と別れて、私は自由の身になって(笑)。

片野玲子さんが練馬で出た後、杉並でも生活者ネットの前進である「グループ生活者」というグループの仲間になったんだけど、こういうこと(政治に関わるということ)をやる人たちがいるのは素敵よね、とは思ったけど、自分がそれを担うという気持ちはなかったんですよ本当に。誰かに話したいと思っただけで自分が入らなきゃいけないと思っただけで、無責任といえば無責任な入り方なだけだけど、ただその中でみんなと話し合いなどするうちに「やっぱり誰か杉並でも出しましょう」という話になったんです。

杉並は他の地域と違って、生協の組織も全くしっかりしていなかったの、当然落ちこぼる可能性の方が大きかったんだけど、そういう普通の人が選挙に出るといことは大事だよ、ということを考えていたから、そういう話をして広げていくためには、誰かが出て選挙の中に入っていきることが必要だということ、立候補者を募らなきゃいけないって、探したけどなかなか見つからない。しかも生協の方で「生協が政治に関わるのはけしからん」なんて声が組合員の方からあがったりして。私たちが「けしからん」なんて言われたものだから、逆に「なんで?!」って思いで数人だけどよけいに頑張ってみんなを説得して歩いて、「じゃあ立候補者が出るならいいよ」って話に

なったときに、他の人は家族がいるし夫はいるしで、落ちこぼる時のマイナスはすごい大きいじゃないですか、私は何にもなかったから「じゃあ私でいいよ」ということで手を挙げたんですよ。普通の人が政治に関わっていくよ、という話をするために一生懸命歩いていて、それで選挙まで漕ぎ着けたわけですよ。

だから選挙に入ったときも「福士敬子に入れて下さい」じゃなくて、杉並はその当時でも47%ぐらいの低い投票率だったから、50%以下の投票率で、政治を誰かにおまかせしちゃっていいんだらうか？って言って歩いて、やっぱり自分たちがきちんと関わることで、政治は監視していかなくちゃいけないんじゃないのって。だから自分が思う人に投票したらその人がどんな活動していくのか、ちゃんと見ていこうよって、そういう選挙をしたんですよ。だから「福士敬子に1票お願いします」っていうのは一度も言っていないと思うよ。自分が投票しようと思う人が何を考えているのか、考えて投票しようよって話でいったから、(自分が)入るか入らないかっていうのは二の次だったんです。

でもきつと、普通の主婦が選挙に出るような状況が社会的には待たれているときだったと思うんです。私自身がそう思ったぐらいだから、他の人の中にもそういう思いがあったのかもしれないと、あと小室等さんなんかものすごく盛り上げてくれたこともあったし、マスコミもおもしろがって書いてくれたということもあったのかもしれないけど、投票率が2%ぐらい上がったんですよ。そのほぼ上がった投票が私に入ったのと同じぐらいだったんで、だから誰に入れていいかわからなかった人が、多分私に入れてくれたんだらうなと思いました。そういう意味ではすごくおもしろい選挙だったと思います。

☆14年間ほとんど1人会派での活動の中で、何を大事にしながら活動したか

もちろん議案は大事なことだけど、基本的には「嘘を言うまい」という気持ちがあるんですよ。それと議案のYes、Noを決めるときにみんなに言い訳できないようなYes、Noはやるまい、というのがありました。

そのひとつに14年間ずっと(議会)レポート出してきました。レポートを出したきっかけは、最初キャッチコピーが『女性に見える区政を』っていうんですけど、それは、24時間地域にいるのが女の人で、その地域にいる女の人たちが、もう少し政治に関心を持つためには、議会の中で何をやっているのかが見えるようにすることが必要で、だからその意味で『女性に見える区政を』だったし、レポートも出して来たわけですよ。レポートを出すことはみんなに情報を送ることではあるけれど、もう一つの意味としては、Yes、Noを決めるときに、自分に枷をはめるというこ

とです。ワケわかんないからホントは妥協したいときいっぱいあるんですよ。そんなに悪そうな議案ってのは滅多にないわけで、半分良くて半分悪いみたいなのがほとんどなんですよ。

Yes、Noがそんなに大きな問題になるのは年に1回あるかどうかぐらいだから。みんなに言い訳したくないような決め方はしたくない。

それはレポートに書かなきゃいけないから、て言うのもあるわけですよ。だからあんまり嘘をつかないようにした。自分をごまかして嘘をつくというやり方ももちろんあるのかもしれないけど、その辺は私けっこう正直なんですよ。

それから政治にみんなが不信感を持つ最大の要因として、きれいな事言いがら内実は違う、口車を合わせている今の政治に、不信感があるからこそ50%以下の投票率なわけなんだから、それを考えるんだらう。正直な政治をしていかなくちゃいけないっていうのが、いまも変わらないけれど、一番大事にしている点かな。

☆都議選の中で訴えていきたいこと

環境問題、ゴミ問題など政策の面ではたくさんありますけど、基本的にはさっき言ったように、政治をきちんと見ていこうってことですね。

今回の「怒ろ！税金のむだづかい」っていうキャッチコピーもそうなんだけど、税金を払ってしまつたらあとは、議員にお任せしてしまつて、その議員が嘘つこうが、自分たちの思い通りでなかるうが、地縁血縁だとか知ってるからというだけで選ぶ、という選び方というのは、やっぱりおかしいよね、というのはあるから、そこは変えていきたい。そこはちゃんと、税金のむだづかいを見ていきましょうってことになるのかな。それが一番ですね。本当に税金の使い道がみんなの納得できるものになったときには、政治がみんなのものになるわけだし、税金が税金として成り立っていくわけですから。

☆政党や組合に依存していた運動を変えるためには

それは、自治市民'93をつくったときと同じ理由で、自分で自己判断できる人がどれだけ出てくるかということだと思います。組織というのは、議論をしたとしてもどこかで人に合わせたり妥協したりすることが出てくる。それは必要なことだろうけれど、あまりにも長い間、同じ組織形態の中にいると上の人たちが決めたことを、みんなでやる、みたいなやり方に慣れすぎているから、そういう形でやっていくのはもうダメなんじゃないかと思っていて、そのテーマごとに、民主的な話し合いの中で合意はしていかなきゃいけないけど、合意に至るその前段階では、個々が判断をして、自分の思いがあって、自分の発言ができる人。人に言われたコピーじゃなくて、自分の思いを発言できるというのがとても大事だと思います。政党はイデオロギーなどでまとまっていって、それは大事だろうけれど、そこに埋没するんじゃないか、そこも自分で判断する。そういう人が増えれば組織もよくなっていくと思います。組織が決めなければ、自分では何もできない人というところからは、何も生まれれないと思います。

都議会議員選挙を控えて、大忙しの福士敬子さん。市民の声で東京を変えていこうと駆け回っています。福士さんへの支援を本誌を通して呼びかけます。

選体ボランティアなどの問い合わせは

☎03-3220-0058

自治市民'93

カンパ振込先は

郵便振替：00110-8-52584

福士敬子と歩む会

ヨロシク!!



写真は 4/18市民政治フォーラム(本文 次ページ)

本気でつくる、市民の政治

4/17・18 市民の絆・市民政治フォーラム、
5/17 市民の声・東京

沖縄米軍基地特措法改悪、医療保健改悪、脳死が死と認められようとして、介護保険も先行き暗く、おまけに自民党・新進党から民主党まで加わって憲法調査委員会設置推進議連なんてものができちゃったりで、世の中の流れはものすごい勢いで私たち市民の思いとは逆の方向へ進んでいるような気がします。

¥103で買ったコンビニのおにぎりが¥105になったところで、なんとか生きていけるし、仕事だけでも結構忙しく時間が過ぎていく毎日の中で、私たちは結構のほほんとしながら、東京都議会議員選挙が今年の7月6日に行われることすら、忘れてしまうことがあります。

そんな中で改悪特措法に「なんとか」反対をした社民党。そんな社民党の中にある、わずかな可能性に期待しながら、4月17日、希望21・未来はみんなで作る隊の主催で、衆議院議員の保坂展人さんとの討論集会を杉並で開催しました。

「市民の絆で、社民党を変える」と題したこの集いに30名以上の人が参加しました。マスコミでは分からない、けっこう厳しい永田町内の状況も含めて話す保坂さんに対して、土井党首の姿勢も含めた社民党への批判も会場の中からは聞かれました。それでも「このような集まりをぜひ続けてほしいし、参加したい」という声もありました。参加した人たちは、ほとんどの人が社民党への批判を持っていたようですが「このままではいけない」という思いと、保坂さん、辻元清美さん、中川智子さんらが社民党、国政のまっただ中に入っていたことで、もしも市民が本気になれば、必ず変えることができる、という期待を持っていると感じました。

翌18日には社民党の本部のある、社会文化会館で「市民政治フォーラム」の結成集会が行われました。PARCの井上礼子さんや市民フォーラム2001の岩崎俊介さんなど今まで生々しい政治とは一線を画したNGOの中で活躍してきた人たちが、具体的な政治についての呼びかけを発信したことについては、それだけで市民の政治に向けての大きな前進だと言う声が私の周辺でも聞かれました。参加者はパット見で300人ぐらいだと思います（ちょっと正確な数字は分かりません）。ここでも社民党への批判が相次ぎ、岩崎俊介さんが「批判ばかりでなく、市民がどう行動できるのか、一緒に考えよう」と呼びかける場面もありました。「市民政治フォーラム」と「市民の絆」の2つを同時に呼びかけるといのはどういうことなのか？ということだとか、集会のつくりとしてもとても煩雑だとかいうことは確かにありましたが、白けきったような雰囲気はなく、むしろ何かが生まれる前のカオスのような感じがしました。自前の政治勢力を地域からつくりと活動している、市民新党にいがたからの「市民の政治勢力をつくるため、共に頑張ろう」というエール

は、私にはとてもシッカリいくものでした。

それとは別に、5月17日には、都議選に市民の候補を擁立して闘おうと発足した「市民の声・東京」のパーティーがありました。市民新党にいがたの武田県議が、自前の市民政治勢力をつくるためには、選挙で頭を下げることも含めて、市民が大きな組織に頼らずに自分たちの力で選挙戦を闘ってゆくことが大切だという趣旨のアピールをしました。また最近出版された、青島都政を批判する書「変節の人」の著者、矢崎泰久さんは「青島都知事に幻想を持ってはいけません。青島都政をきちんと批判できる人たちが都議会に入ってくることが大事」と訴えました。

矢崎さんの呼びかけで、会場に来ていた中山千夏さんも壇上に上り、予定候補者や支援者へエールを送る場面もあり、参加者たちも多いに盛り上がりしました。

「市民の声・東京」からは、この夏の都議選に4人の立候補を予定しています。目黒から大久保清志さん、世田谷から下元たか子さん、杉並から福士敬子さん、江東から田中やすこさんです。本来無所属の立場で活動してきた人たちですが、選挙期間中には無所属候補ではチラシ1枚撒くこともできないという制約から、力を合わせて闘おうと今回の「市民の声・東京」の発足となったわけです。きっかけは選挙かもしれませんが、同じように今の政治に異議を持っている市民が、地域を越えて1つのテーブルを持つことはとても大切だと私は思います。今回の都議選には、この4人の他に調布・狛江から藤川やすしさんが社民党の推薦を受けて、市民の側の候補としての出馬が予定されています。この人たちを都議会に送ることができれば市民の政治は大いに前進することになるでしょう。とにもかくにもこの都議選を戦い抜くことによって、より幅広い市民のつながりができるを期待して止みません。

「市民の絆」、「市民の声・東京」とさまざまなグループが立ち上がっています。これらは確かに別々に発足しましたが、決してバラバラではないのだという実感の間私の中では確信しています。そして、こういった市民の政治勢力をつくりたいという流れが、社民党を市民政党へ変えようとしている人たちや、新社会党の人たち、自覚的に政治に関わろうとする労働組合の人たちなども合流することによって、自民・新進から民主までをも取り込んだ総保守化、改憲の流れをくい止め、新しい、市民・民衆のための東京、日本、世界の在り方へ向けて流れていくことを信じます。共に頑張らしましょう。

(ニョキ)

国境・言語を越えて人と人がつながる方法

突然ですが、マニラに行きませんか？

PETA(フィリピン教育演劇協会)・サマーワークショップ '97

ワークショップって何？

ワークショップの語源は「自動車修理工房」で、「みんなで集まって共同作業をすること」を指すようになりました。講師が一方的に話し続けるという受け身の形ではなく、参加者自身が様々なゲーム・ディスカッション、寸劇などを行い、アタマとカラダを存分に使いながら、自分たちの問題を発見し、解決のプロセスをみつめていくものです。

自分たちの問題を発見する。

これこそが、今、難しいことではないかと私は思っています。ものすごい情報量の中で、ほんとに知りたいたことは知らされない。これは、日の出村でワークショップ(W.S.)をしたときに感じたことでもあります。私達のゴミは、その後どうなっていくかを知らされず、そのことが私達のゴミへの関心を少なくさせ、受けている影響にも気づかせない・・・そう思いました。今まで余り考えてなかったゴミ問題が急に目の前に迫ってきたのを覚えています。ひと事ではなく、自分のこととして考えるきっかけをW.S.がくれました。自分のこととして考えたり、感じたりすることは、言い換えれば「主体的に」ということです。これが、W.S.の魅力の1つだと思っています。

それから、共同作業

自分のこととして考えたり、感じたりするようになるのは、勿論個人の問題でもあるのですが、仲間の意見や様子からの影響がおおきいよなとW.S.をする度に思います。考えがまとまらなかったり、アイデアが浮かばないとき、誰かのなにかの発言や行動で、私の何かが動き出し、意見をしゃべりまくったりします。それが今度は別の誰かの何かに作用して、どんどん創造が広がっていく。この、わくわくした感じ、共同で作り出すことも、W.S.の大きな魅力にだと思っています。

てなわけで、主体的に、共同で作り出す。

これを、いろいろな場面で多くの人に体験してほしいと思っています。私は養護学校の教員ですが、教師と生徒の「指導する側」と指導される側」という関係を壊したくて、W.S.の手法を学校に持ち込みたいと思っています。そのためにW.S.の経験をたくさん持つPETAで、その手法を学びたい、そう思いました。

そんな思いの人が集まって、今回の企画となったのです。

W.S.は、必ず、私達の力になります。

大塚明子

未来ワークショップ

03-3330-0588(メディア・ガレージ気付)



日程・・・8/4(月)～8/10(日)

参加費・・・18万円

(含まれるもの 成田からマニラ往復航空運賃、宿泊費、ワークショップ中の食事、ワークショップ受講料、ワークショップに関わる移動費)

定員・・・15名(最少催行人員 12名)

主催・・・PEACE(ピース・アクト・センター) 未来ワークショップ 日本初「マニラ」委員会東京ネットワーク

企画・協力

進行・・・PETA(フィリピン教育演劇協会)

やること・即興劇・語り・絵・音とリズムダンスなどを使いながら「自分を語ろう」「私の目で見えたマニラ」について考え、発表する。そして、民衆演劇がどのように市民活動に取り入れられてきたのか、また、市民活動で用いられている様々な芸術的手法を学ぶ。

☆なぜマニラなのか

それは、日本の外に出て、いつもと違う視点で自分の生活を振り返ることができるからです。そして、ワークショップが根付いているフィリピンで様々な文化グループと交流できるという利点があるからです。

(進行役の一人 テッサ・ケサダさんの挨拶文より。)

編集後記

●公務員の採用における国籍条項の撤廃は、多くの人々の共感を持って迎えられたと思うのですが、実は、制限付き撤廃ということで、神奈川県や横浜市などでは、過去には教諭として採用した実績もあったのに、文部省が1991年に出した「公立学校の教員には日本国籍が必要とし、外国人は『常勤講師に限る』」という時代錯誤的な通知に沿って、本年度の教員採用案内に外国人の制限を明記することにしたそうです。

(5月21日付神奈川新聞)

在日外国人は、これによって正規採用とされず、いくら努力しても管理職登用の道は開かれず、同じ仕事をして給料が安い等、差別が公然と行われることになりました。(平等をどう教えるのだ?)

従軍慰安婦問題を始め、家庭における女性の役割を家庭を守るものと決めつけ、夫婦別姓の問題には触れさせない家庭科の教科書の検定にみられるように、教育行政は、かなり今の私達の思いとかけ離れているような気がしてなりません。ここにも私達の手で風穴を!! (千)

希望の21世紀宣言

私たちは、現在のモノ中心の社会を、人間が人間らしく生きることのできる社会へとつくり変えていくことをめざします。

人間らしい社会—人と人が平等に、ともに助け合って、人間が自然の一部として本来の姿で生きることのできる社会—を実現することこそが、人々の希望です。私たちはそのために、あらゆる領域で民主主義を徹底し、民主主義をはばむものに対してたたかいます。

私たちは、世界に戦争と大国主義の不平等をもたらす憲法改悪を許しません。9条の理念の実態を日本から作っていくことによって世界の平和と民主主義の実現に貢献していきます。国と国とは対等平等の関係にあり、人間らしく生きることを豊かさの尺度に、人々のあり方を人々が決め、どこの誰も本当に武力を必要としない国際社会の実現こそが、平和の実現です。

私たちは、地域からの国の進路、世界のあり方を決定する政治的な力を作っていきます。そのために、私たちの意志、知恵や力を結集し、たがいの経験に学び合い、信頼を築き合いながら、自治の実現をめざします。何かに頼ることなく広範な人々とともに変革の力を作り、その統一を推進することを自らの役割とします。

世界の現実を変えること—それは私たち自身のあり方、運動のあり方を変えることなくしては実現できません。私たちは自らを変えあう中で現実を変革していきます。本音を出し合い、あらゆる困難をと共に克服し、成功や喜びを、そして失敗や悲しみをも共有し、助け合っただたかひの輪を広げ、その中に新しい社会を準備していきます。

人間らしい社会の実現をめざし、世界の平和と民主主義を求め人々とともに、希望の実現に向けて進みます。

1部200円 定期購読をよろしくお願ひします!年間購読料3000円(送料込み)

郵便振替:00100-1-97125『希望の21世紀』

月刊『希望の21世紀』●創刊20号●1997年5月25日
発行●「希望の21世紀」全国委員会 編集●希望三多摩
連絡先●希望21・三多摩

東京都日野市多摩平6-20公住219-5 三浦方 TEL&FAX 0425-82-2407

●希望21・京都

京都府京都市中京区丸太町通柳馬場西入る鍵屋町75東洋ビル3FCOM京都気付
TEL 075-212-2455 FAX 075-212-2456

●希望21・未来はみんなで作る隊

東京都杉並区高円寺南2-39-15 光荘203 菅原方
TEL 03-3314-1505 FAX03-3223-0468

●希望21・神戸

兵庫県神戸市灘区森後町2-1-7 斎原ビル302
TEL&FAX 078-843-7626

●希望21・大島

東京都大島町元町字小清水273尾形方 TEL&FAX 04992-2-4708

●希望・大阪

大阪府守口市外島町6西1-1709井本方 TEL&FAX 06-997-2062

希望

21

century